

あきる野市版のレッドリスト（ほ乳類、両生類、は虫類）を公開しています。環境省や東京都のレッドリスト・レッドデータブックの指定種などの内容とは異なる部分があり、これまでは「珍しい」とされていなかった生き物が高いランクで絶滅危惧種に指定されています。また、現在それほど珍しくはないが、昔に比べて大幅に数が減ってしまった種類が多い印象を受けています。

両生類が減っている地域は多く、あきる野市も例外ではありません。「昔、トウキョウサンショウウオはたくさんいて、よく道路上でひかれていた」という話を何回か聞いたことがあります。現在は、主に産卵場所が少ないことや天敵が多いことから激減してしまい、多くの両生類が絶滅しています。その中で、土地利用の変化やアライグマなどの外来種の影響は最も目立つ原因です。

市のレッドリストでは、ニホンアカガエルという昔の田んぼや湿地でよく見かけた地味なカエルが「絶滅の恐れが最も高いランク」に指定されました。市内で見られるのはわずかです。もう一つ下のランクで、トウキョウサンショウウオやアカハライモリ、トウキョウダルマガエル、ツチガエルが指定されました。その他の種類も、なんらかのランクに指定され、市に生息する全



ニホンアカガエル。市内でよく見られるヤマアカガエルにとっても似ていますが、^{背側線}背側線がほとんど折れていないことで識別できます。もし見かけたら、決して持ち帰らず、見守ってあげてください。

での在来両生類（全14種）が減少などの理由で、レッドリスト入りとなってしまいました。

両生類の絶滅を防ぎ守っていくため、多くの方が力を尽くして生息環境をつくり、外来種を捕獲している状況です。

素晴らしい自然が残っているこのあきる野でも、見つけにくくなっている生き物が増えているので、本物の宝探しのように感じ始めています。「宝」がなくならないためには、みんなの関心が必要です。昔の当たり前が、現在の珍しいになるということは、現在の当たり前もいつかは珍しくなるかもしれません。今から大切にしましょう。（パブロ）